



鶴の便り 鶴の便り

紙芝居で綴る

「ふるさとの昔」事業

紙芝居づくり講習会

作品発表!

夕鶴の里友の会主催(渡邊記美子会長)の紙芝居講習会(三回講座)が、十一月九日(日)、各自が作成した紙芝居の発表を以って終了しました。

九月六日(土)から始まった紙芝居づくり講習会は、参加者十七名が、講師のときわひろみ先生より、脚本作りについてアドバイスを頂き、各自脚本を作り、脚本に沿って絵のポイントの指導を受けた。

絵の制作は、自宅での作業になったが、発表会当日(九日)は、受講生がそれぞれの作品を発表し、ときわ先生より、その都度、演じ方と、絵へのアドバイスを受けていました。

受講生からは、「講習時間が短く難しいところもあったが、作成



11/9 発表風景



9/6 講師の講話



10/18
脚本作り

していく過程で、紙芝居の魅力、奥の深さを感じた」「紙芝居が完成したら、達成感を味わい、楽しかった」などの感想が寄せられました。

夕鶴の里資料館報

平成26年11月20日

第47号
発行 夕鶴の里

TEL 47-5800

～オリジナルマフラー～



染め織り体験学習(まゆの里事業・川合ひさ子会長)で制作したオリジナルマフラーの展示会が十一月一日(土)～十六(日)までの二週間開催され、関係者、染め織りに興味のある方々が訪れ、一点一点の作品を興味深く見ていました。

まゆの里事業は、山形県蚕糸業会様より支援を頂いて行っている事業で、今年で三年目。

今年は、三十名が受講し、真綿を赤じそ、ヨモギで染色し、糸を紡いで織り上げ、昨年より二十cm長いオリジナルマフラーが完成しました。

どの作品も、個性たっぷり、温もりたっぷり、作品に仕上がりが、受講生は首に巻くのを楽しみにしている様子でした。

展示会終了!



◇出演者◇

鈴木 愛叶(宮内小 4年)
高橋 万梨恵(漆山小 6年)
高橋 駿太(漆山小 6年)
小野田 彩音(中川小 4年)
川崎 愛良(中川小 4年)

「夕鶴っ子の会」

出演!

南陽子ども芸術祭

南陽子ども芸術祭が、十一月十六日(日)、南陽市民会館「大ホール」で開催され、当夕鶴の里より、子どもの語り部5名が「夕鶴っ子の会」として出演しました。

「夕鶴っ子の会」は、養成講座参加者のうち、特に関心を持ち、もつと民話を学び上手に語りたという意欲のある子供を対象に結成し、「民話会ゆうづる」の語り部の指導のもと、子ども芸術祭をはじめ、学校の行事や地域の文化行事などでも民話を披露し、たくさんの方々に語りを聴いていただいております。

将来は南陽市の語り部としてぜひ、活躍してほしいですね!

民話会ゆうづる 会員紹介

今回は、民話会ゆうづるの会員、松橋信子さんをご紹介します。

Q、民話会ゆうづるの会員になったのはいつごろですか？また、そのきっかけはなんですか？

A、松橋

四十五年の都会生活Uターンし、故郷の歴史や伝承語りに興味を持ち、平成十九年、夕鶴の里語り部養成講座を受講し、すっかり昔語りにはまっています。そんな時、平成二十二年二月、現会長の多勢久美子さんより入会のお誘いがあり入会しました。Q、語り部になられてよかった事は何ですか？

A、松橋

全国語りの祭や北海道、東京にお声をかけていただき出かけて、山形の語りが出来る事や、色々な土地に出かけるチャンスができ、全国のお国なまりの昔話が聞ける事かな。

Q、語り部をして一番嬉しかったことをあげるとしたら？

A、松橋

色々な方々と出逢い、交流が出来る事。又、昔語りをして、「感動した」とか「楽しかった」「又聞かせて下さい」と言われて一度、二度とお声かけていただけた事です。

Q、昔話（民話）とは松橋さんにとって何ですか？また、好きな民話は？

A、松橋

趣味でもあるし、生きがいか。離れている孫にも山形弁で「むがーすむがーすあつたけずまなあ」と昔話してあげたいです。好きな民話は、「真心の一文銭」「大淵の怪」、笑いや艶話も大好きです。

Q、語りを通して、大切にしている事、物を教えてください。

A、松橋

語りをする前に五本の手の指を確認する事かな。

(小指)語る話が自分の語りになっているかな。余裕があるか。

(薬指)健康で心が安定しているか。声の調子、笑顔になれるか。

(中指)話しの会場と対象者はどれか。

(人さし指)相互伝達に心がける。

※キャッチボールが出来るように。相手の様子を良く見て、ゆっくりに、優しく反応を受ける。

(親指)自分の点検かな。相手に何を伝えたいのか。

長所、短所と自分の個性があるのか、相手に心よく通じるか考えるなど、大切にしている事かな。Q、最後に、今思っていること。何でも……。

A、松橋

地域に根付いた伝説民話をより多く語り伝え、又、昔

話も笑顔が多く見られるような楽しい語り、語り手と聞き手が共に共感できるようにしていけたらと思っています。



松橋信子さん

漆山地区 地名伝説集

「埋もれた宝物」

むかーし、むかーしの大昔あつたけずまなあ。

池黒の館山あたりに、その辺一带を支配しておった大長者様いたつけずまなあ。

ある年、戦いがあつて、長者様負けてすまたたなど。この長者様、いっぱい宝物もつておったなど。

この宝物攻めてきた敵に渡したくないので、どつかさ埋めて隠したなど。そして、その隠した場所、誰さも教えないで死んですまたたなど。

死ぬ前に、一つの唄だけ残したなど。昔から村の人々あ、一生懸命謎の唄よみの場所、探したんだげんど、だあれも見つけらんにえなど。

明治の中頃、別所の法印様が、飼っていた馬の蹄に赤い朱がつい

て来た事があつたので、人足を出して探したげんど、見つけれなかつたなど。お前だ、謎の唄教えるが探してみんだ。

五里いつて七里かえる、朝日さし、夕日輝く、三又こうず(そ)のその下にくわ千丁、朱千杯。

とーびんと

※山々を後ろに、南に広がった私達の古里。

保延六年、銘ある経筒が発掘された天神様の峰、応徳三年別所皇大神社再建の棟札、地区内にある鎌倉中期の板碑など。

朱は金の精製に欠かすことの出来ないものであり、あらくわは、鉄製品が貴重であつた頃の伝説であり、古代文化の夢もまた、楽しいものです。

地名伝説担当編集

おりはたの里づくり推進会議

ありがとうしました

山路愛子さんが九月末をもって、民話会ゆうづるを退会されました。

長い間、夕鶴の里にご尽力をいただき、大変ありがとうございました。

そしてお疲れ様でした。